

オディリア通信

あいあい

夏号(No.78)

R2年8月10日

社会福祉法人 聖オディリアホーム乳児院
〒165-0031 東京都中野区上鷲宮 5-28-28
TEL (03)5971-8071 FAX (03)5971-8073

Eメール odilia@guitar.ocn.ne.jp

ホームページ <http://odilia.jp>

基本理念 「愛をもって、愛を育てる」

ようやく梅雨が明け、眩しい太陽の陽射しと共に、夏がやってきました。子どもたちにも聞きながら、水遊びをしようか、院庭でどうんこ遊びをしようかなど、毎日の活動を考えます。

今年は、新型コロナウイルスの感染予防のため、院での生活も変えざるを得ない部分があります。天気を確認した上で少しかけ散歩にはとても、公園遊びは十分にはできません。春からの部屋単位の遠足などの行事も縮小しています。

オディリアでは、家庭的な養育をめざすため、出来る限り子どもたちと職員が生活を共にしてきました。また、保護者の方と一緒に子育てしていけるよう、児童相談所と協議しながら、出来る限りの面会にきていただけるような体制作りをしてきました。

日々の都内の感染状況をみながらにはなりますが、これらが少しでも続けられるよう、職員は健康管理に努めマスクをしながら保育しています。保護者の方にも手洗いを十分にしてください、室内ではマスクをして面会していただいています。

今日できる最善の養育を続け、子どもたちが安全に楽しく生活できるように努めていきます。

(施設長 鎌倉 道子)



ひまわり（年長児保育）

六月と七月二組に分かれ、ひまわり参加
児で近隣の畑にじゃが芋掘りに出かけ
てきました。

「じゃがいもー。」と言いながら畑に向
かった子どもたち。初めての広い畑に圧倒
されたのか、はじめは立ち戻りして畑を見
ていました。保育者が土の中にじゃが芋が
あることを掘って見せると、「すべー」一緒
にじゃが芋を掘る児の様子を見て少しずつ土
やじゃが芋に触れる児と様々な反応が見
られました。最後には「おおきいね。ちい
さいね」と話しながら皆夢中でじゃが芋を
袋の中に入れていました。自分で見つけた
じゃが芋を手にした子どもたちの顔には
笑顔があふれています。

持ち帰ったじゃが芋はカレーやおやつ
のじゃがバターにしてもいい、沢山食べま
した。

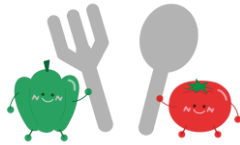
（保育士 岡本）

調理室から

「子どもの味覚」

子どもの成長・発達において、『食事は
大切』と言われます。大人としては色々な
食材をまんべんなく食べてほしいと願っ
ていてもそれは中々難しいのが現実です。
さて、味には五つの基本味があります。
『甘味』『旨味』『塩味』『酸味』『苦味』で
す。これらの口腔内や舌や喉などにある味
蕾（みらい）という器官で感じとります。
0～1歳の赤ちゃんは、離乳食を通して食
感・舌触り、温度、匂い、色彩など、さま
ざまな味を五感で感じなが
ら食べ物のおいしさを知っ
ていきます。2～3歳頃にな
ると自我が発達すること
もに食べ物の好みを主張す
るようになってきます。

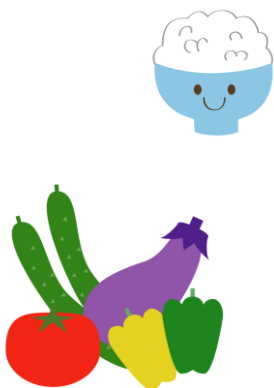
子どもには、『苦味』『酸
味』を感じる野菜や果物な
どももとても苦手とする傾
向があります。そのため、ピーマンやほう
れん草など食べるとええみや苦味がでる
野菜を嫌がるのです。ただし、この『苦味』
や『酸味』は何度も経験するにつれて、本来
なら徐々に慣れていく味なのです。では、



なぜ嫌がって食べてくれないのでしょうか。
子どもの嗜好は、味だけで美味しいと感じ
るのでではなく、食事のときの環境や体調
の状態や五感で感じる体験などのあらゆる
情報が積み重なって『好き・嫌い』を判
断しているからなのです。『体調が悪い時
に吐いてしまった』『無理やり食べさせら
れた』などは嫌な経験となし苦手となりや
すいです。対して『食事のお手伝いをして
楽しく美味しく食べることが出来た』と良
い経験があると好きなものが増えていき
ます。苦手なものを少しでも食べることが
できたら褒めてあげるのも、やはり大切に
と思います。

乳幼児期は、食べるということを経験し
覚えていく時期です。まずは、食べること
が楽しいと思える環境を作っていくまじ
よう。

（栄養士 堀井）



梅雨

六月十一日頃に梅雨入りのした関東地方。ジメジメと蒸し暑く過ごしにくい日々となりましたが、子どもたちにとっては絶好の日和です。パラパラと弱い雨の日に合羽を着て傘を持てば準備万端！いつもは避ける水溜まりも、この日はやはり「シャ」と踏んでみたり、手で触ってみたり。

初めはなかなか近づけなかった児も、保育者が遊んでいるとすかさずやってきて一緒に楽しんでいました。

傘の使い方も分からない児がほとんどでしたが、しばらく遊ぶうちに「コッをつかみ、上手にさしていました。」

雨上がりには院庭に咲くアジサイの花を観察。シンと触ってみたり、においを嗅いでみたりと思いおもいに梅雨の時期を味わう子どもたちでした。

(保育士 荒井)



七夕

七月の一大行事『七夕』。今年も玄関や二階の廊下に大きな笹が飾られました。子どもたちはキラキラした色とりどりの飾りに興味津々。少し触ってみたり「きらきら」と言いながら指を指したりしていました。保育者と一緒に短冊も書きました。子どもたちの願いが詰まった短冊も飾り終え、素敵な笹が完成しました。

そして、待ちに待った七夕当日。みんなで可愛い甚平に着替え、笹の葉と一緒に写真撮影をしました。保育者の歓声に照れながらも決めポーズをしてくれました。

昼食は豪華な七夕メニュー。たくさん並べられた食べ物に子どもたちは興味津々です。みんなで一緒にバイキング形式の食事をしました。とても楽しい七夕でした。

(保育士 梅村)



おいしいおやつ時間

七月十八日は子どもたちが皮むきをしたとうもろこしをおやつで食べました。いつも食べているコーンの大きさの違いに驚く子どもたち。大きな口を開けてとうもろこしにかじりついていました。

七月二十三日はアイスクリームを食べました。普段はなかなか食べることの出来ないアイスクリームを目の前にすると少し不思議そうな表情をしていました。

恐る恐るアイスの入った器に触れてみると「つめたーい」と言い少し驚きながらも笑顔を見せていました。

その後アイスを食べてみると・・・冷たくて美味しかったようで、「おいしいね」と言いながらどんどん食べ進めている子どもたちでした。

(保育士 梅村)



ナースの一言アドバイス

これから暑くなります暑い夏の、子どもたちも熱中症になってしまつていけません。暑い夏も安全に楽しく過ごすためのポイントについていきたいと思います。

熱中症とは

汗がかけなくなることで体の中で発生した熱が体の外へ出せず、体温調節が出来なくなることで起こります。高温多湿の環境で、十分な水分補給をしないで運動すると発症しやすいといわれています。子どもは大人よりも脱水症を起こしやすいため、とくに注意が必要です。

熱中症を防ぐために

- ・戸外に出る時は必ず帽子をかぶる。
 - ・炎天下では長時間遊ばず、日陰で涼む時間を取る。
 - ・お茶等でこまめに水分補給をする。
- 高温の室内や車内で熱中症になることが多いため、子ども様をよく観察する必要があります。また、短時間で子どもを一人にしてはいけません。



室内で冷房を使用する時は

体温調節がうまくできない子どもには、クーラーの風を直接当てないようにするなど配慮が必要です。また、外気との温度差を3～5℃程度にして、急激な温度変化を防ぎましょう。

熱中症を思ったら

- ・涼しい風通しのよい場所に寝かせ衣服をゆるめ休ませる。
- ・首や脇の下、足の付け根に冷たいタオルを当てて体を冷やす。
- ・イオン水など少量の塩分の入った水分を頻回に飲む。



こんな時は救急車を呼びましょう

- ・意識がない
- ・痙攣をおこしている
- ・水分補給が出来ない
- ・呼吸が不規則で脈が弱い
- ・体温が上ががり、なかなか下がらない



救急車が来るまでは、子どもを動かさずに冷やしたり、うちわ等であおいだりして体を冷やします。

最初は軽症でも放置するとあつという間に重症になることもあるため、注意しましょう。

(看護師 橋本)

今後の行事

10月 ハロウィン



お知らせ

聖オディリアホーム乳児院のホームページがあります。合わせてご覧下さい。

<http://odilia.jp>

☆編集 後記☆

暑い夏が続いており、大人はぐったりしてしまつてもありますが…子どもたちは暑い夏でも元気いっぱい！帽子を被り、水分補給をしっかりとしながらたくさん走り回っています。大人も子どもも体調管理には気を付けて暑い夏を乗り切りたいと思います！

(保育士 梅村)